

| 学校経営方針（中期経営目標） | 前年度の成果と課題 | 本年度学校経営の重点（短期経営目標） |
|---|--|---|
| <p>《育てたい生徒》 ○生徒の生涯におけるキャリア形成の礎となる、社会人としての一步を踏み出す力を備えた、社会から必要とされる人を育てる。</p> <p>○進路として就職を選んだ場合も、自らの資質能力向上にむけ、リカレント学習やリスクリング学習に取り組む人材を育てる。</p> <p>○進路として進学を選んだ場合も、仕事によって社会の役に立つ志を持ち学習を続ける人材を育てる。</p> <p>《育てたい資質・能力》～社会人としての一步を踏み出す力～</p> <ol style="list-style-type: none"> Shine～明るく・輝く～ 前向きな人、明るく活気のある職場をつくる力 Union～調和～ 内にも外にも開かれ、チームの多様性を認める力 Business～勤労～ ビジネスマナーと資格取得、使いこなせる学力 Action～実行～ 自立心のある人、課題解決の視点 Robust～たくましく 何があっても立ち上がるしなやかな力 Unite～一つになる～ 自他への敬意がある人、円滑な対人関係を築く力 | <ol style="list-style-type: none"> 1 専門性ある職業人を育てる学校 新しい形態の販売学習京都すばるデパートが実施できた。検定試験合格や資格取得は進路実現や自己肯定感と結びつくため指導法の検討が必要である。商業の各種競技会は京都府のリーダーを目指さなければならない。 2 主体性を育てる学校 生徒会や委員会の活動によって主体性を伸ばした。教科指導における、発問対話形式や生徒の表現活動を主体とした取り組みは効果的であった。 3 学力が向上する学校 基礎学力学習（学び直し）・考査前補充授業、長期休業中補充授業など、学習状況に不安のある生徒への対応ができた。学校全体の授業力向上に向けて全教職員が参加しやすい環境整備が必要である。 4 自立(律)性を育てる学校) 生活習慣の確立に向けた指導について検討が必要がある。いじめ調査アンケートをもとに、いじめの兆候を見過ごしてはいけない。清掃活動はおおむねできているが、さらなる環境整備が必要である。 5 教育相談を組織的に行う学校 配慮が必要な生徒への就職指導を効果的に実施できた。また各種会議や外部専門家のサポートによって情報の共有ができた。 6 進路実現ができる学校 計画的な就職指導を行い全員が早期に内定を得た。連携する大学が増加した。第二学年では進路に向けての意識がまだまだ高まらなかった。 7 学校DXを推進する学校 学校DXは確実に進行している。特にコミュニケーション分野で進んでいる。今後は生徒の活用をさらに増やす各教科指導の研究を深めなければならない 8 スクールマーケティングを推進する学校 前期選抜の志願者数は起業創造科100名、企画科117名、情報科学科90名で、おおむね目標を達成することができた。「すばるアントレパーク」やデパート説明会などは大きなインパクトがあった。 9 施設設備が充実している学校 月1回の定期点検は達成できた。樹木剪定等を積極的に行い環境整備が進んだ。 10 教職員がチームになっている学校 生徒に関する情報の共有機会が増加した。 | <p>重点目標1 本校が大切にしている、学校の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 専門性を生かし、社会に貢献する意識を育む学校（教育推進部・学科） 主体性を持ち自ら考え挑戦する意識を育む取組が実践される学校（学年部） 生涯学び続けるための学ぶ力をつける学校（教科） 規律性を持ち、約束事を守り多様性を大切にしている心が育つ学校（生徒指導部） 安心して通い、安全に過ごす環境を整備する学校（事務部） 生徒一人ひとりに寄り添った教育相談体制のある学校（保健部） スクール・マーケティング、本校の魅力を学校内外へ伝える学校（総務企画部） キャリア形成としての進路が実現する学校（進路指導部） 一人一台端末等、ICTを効果的に活用し学校DXを推進する学校（教務部） 確かな目標を持った部活動で、豊かな心が育つ学校（部活動） <p>重点目標2 本校が大切にしている、教職員チームの目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 魅力ある授業に向けて研究を進めるチーム ひとり一人の強みを生かし、協働して本校教育に向き合うチーム 意見の相違を受け入れ、対話を大切にしているチーム 業務分担・サポート・ポジティブなフィードバックをするチーム 教育方針や育てたい生徒像、生徒の日常の様子を共有するチーム 規律を守り、オフィス感覚を持って働きやすい環境作りをするチーム 笑談をとおして新しいアイデアを創造するチーム |

| 部 | 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策 | 評価基準 | 評価 | | | 成果と課題 | |
|-------------------------------|--------|---|--|--|----|--|---|--|--|
| 教務部 | 学習指導 | 学力向上 | 考査前補充の実施 | 年間25日以上実施する | D | A | B | 次年度も継続が必要 | |
| | | | 長期休業中補充の実施 | 8日以上実施する | D | A | B | 次年度も継続が必要 | |
| | 資質向上 | 授業力向上 | 魅力ある授業に向けた研究授業の実施 | 各教科1回以上実施する | D | B | C | 少人数教科への考慮が必要 | |
| | | | 教務視点のUDを意識した資料作成 | 意識率を80%以上にする | A | A | A | 年度当初研修会で周知できた | |
| | ICT利活用 | 学校DX推進 | 教務視点のDXを意識した資料配付 | 意識率を80%以上にする | A | A | A | 年度当初研修会で周知できた | |
| | | | 「採点ナビ」の普及 | 普及率を60%以上にする | D | C | C | 次年度も継続が必要 | |
| 総務企画部 | 生徒募集 | スクール・マーケティング、本校の魅力を学校内外へ伝える学校①【校外】 | ・特に高卒後就職を考えている中学生への広報活動 →方策の詳細は職員会議資料「生徒募集戦略」参照 | 次年度前期選抜における志願者数 （起業創造科+企画科計220名以上、情報科学科90名以上） | B | B | A | 前期選抜の志願者数は商業学科群211名、情報科学科62名で、目標の88%を達成した。各説明会等の満足度は80%を超え、充実した内容となった。「すばるアントレパーク」やデパート説明会などは2年連続の実施となり、在校生・中学生・保護者にもインパクトがあった。ブログは担当者がそれぞれ更新できる仕組みを整え、年間250回以上更新し、校内外の広報強化ができた。 | |
| | | スクール・マーケティング、本校の魅力を学校内外へ伝える学校②【校内】 | ・授業や行事の様子を校内でも共有し、在校生・保護者・教職員の帰属意識や満足度を高める →方策の詳細は職員会議資料「生徒募集戦略」参照 | 同上（校内広報が最終的には中学生の募集につながる） | B | A | | | |
| | 図書 | 図書館の活性化 | ・総務企画部員で図書館業務や委員会活動を分担する ・各種イベント等を積極的に企画実施する ・授業等で図書館を活用してもらうよう働きかける | 図書館の利用者数のべ7,000人以上 授業での図書館利用回数10回以上 | B | B | | | 利用者数は年間5,715人、授業での利用回数は12回であった。イベントの企画実施も積極的に行った。1日あたりの来館率は4.5%で、ここ5年間ほぼ横ばいである。次年度も「授業で活用してもらう仕組み作り」を引き続き行いたい。 |
| | 協働体制 | 一人ひとりの強みを生かし、協働して本校教育に向き合うチーム | ・それぞれの職や立場（教諭+常勤講師/図書館司書/実習助手）からの視点を各分掌業務に生かす | 部員による評価（中間・最終） | B | A | | | 生徒募集・図書館・校内の式典などあらゆる場面で、それぞれの立場・視点からの意見を取り入れながら業務を行うことができた。 |
| 業務分担・サポート・ポジティブなフィードバックをするチーム | | ・「自分しか知らない分掌業務」をなくし、共有や引き継ぎを積極的に行う ・部長が適切にマネジメントを行い、特定の人に業務が偏っていないか気を配る ・説明会等、業務の区切りごとに全員で振り返りを行う | 部員による評価（中間・最終） | C | B | 業務の区切りごとの振り返りは年10回以上行った。一方で業務の偏りやいわゆる「属人化」は一部でまだ残っている。 | | | |

| | | | | | | | | |
|-----------|-------------------------------|--|--|--|---|---|---|---|
| 生徒指導部 | 生徒指導 | 基本的生活習慣の確立 | 登校時の校門指導を実施し、5分前集合の定着を図るとともに、遅刻した生徒には、的確に指導する。 | 毎朝、登校時の校門指導を行う。校門遅刻指導件数を昨年度より減らす。 | B | C | C | すばる街道から学校前につながる横断歩道に立ち、徒歩通学生徒へ時間を意識させ行動させた。しかし、昨年度より、遅刻の延べ数が増加した。次年度への課題である。 |
| | | | 身だしなみの重要性を指導し、生徒自身に細部にわたり身なりを整える意識を持たせる。日々観察しながら、改善点を確実に指摘する。 | 全校生徒対象のアンケートを実施し、評価を行う。(予定) | B | B | B | 学校評価アンケート問9より肯定的な回答が91%だったため。 |
| | 生徒指導 | 規律性を持ち、約束事を守り、規範意識の向上に努める | HR掲示やスタディサプリなどを活用し、規定や規則の周知を図る。 | 全校生徒対象のアンケートを実施し、評価を行う。(予定) | C | B | B | 学校評価アンケート問13より肯定的な回答が86%だったため。 |
| | 生徒指導 | 相手の立場に立った言動ができる生徒を育てる | 年2回の人権学習や日常のホームルーム、部活動などを通じて、言動に責任を持つとともに、他者への思いやりが感じられる行動を心掛けるよう指導する。 | 年2回のいじめ調査アンケート調査を行い、評価する。 | C | B | B | 2回目調査が1回目調査よりも件数が減少した。学年を中心に個々で対応いただいた結果だと考える。 |
| | 生徒指導 | 生徒の主体的な活動を支援する | 部活動、生徒会活動、各種委員会活動の充実を図る。 風紀委員を巻き込み、現在の校則や規則の見直しのきっかけを作る。 | 生徒会活動、各種委員会活動の活動内容により評価を行う。 生徒会活動、各種委員会活動の活動内容により評価を行う。 | C | B | B | 各委員会で適切な時期と回数を年間通して実施した。また、生徒会主催のイベント「第2回すばフェス」を開催し、生徒の主体性を促した。 年6回の風紀委員を開催し、キーホルダーの装飾について、意見を求めた。生徒の意見もルール変更に反映させた。他のルールについても整理や変更の課題が残る。 |
| 生徒指導 | 意見の相違を受け入れ、対話を大切にしているチーム | 各分掌間で連携を図り、生徒指導や学校規定等が円滑に進むよう努める。 | 生徒指導や行事ごとに生徒指導部から各分掌からの意見を徴集し、評価に繋げる。 | B | B | B | 身だしなみ指導については、学年部と連携をとり、円滑に指導を進めることができた。また、行事についても体育祭の準備を全職員体制とした。 | |
| 進路指導部 | 進路指導体制の拡充 | 生涯学び続けるための学ぶ力をつける学校 | 各種模擬試験/実力テストの分析を行い、学習面・生活面・進路意識等についての生徒の実態把握に努める | 学年全員が受験する模擬試験/実力テストの分析を実施し、部長会議等で報告する | C | C | C | 一部分析報告ができなかったものがある |
| | | 生徒一人ひとりに寄り添った教育相談体制のある学校 | 教育相談会議や学年部との連携調整を密にし、配慮の必要な生徒の進路実現についての道筋をつける | 配慮が必要な生徒の進路実現への対応するとともに、今後に向けた指導計画を策定する | B | A | A | 配慮が必要な生徒の就職を実現し、今後の指導の道筋もつけた |
| | | 業務分担・サポート・ポジティブなフィードバックをするチーム | 所定の分担に従って業務を遂行するとともに、想定外の事象に対して柔軟に対応できる体制を構築する | 部会等をとおして定期的に業務遂行状況を確認する | B | B | B | 所定の分担に従って概ね業務を遂行できた。 |
| | 持続可能な進路実現方法の模索 | キャリア形成としての進路が実現する学校 | 就職補習の実施・企業見学の拡充など、就職指導体制の充実を図る | アンケートで80%以上3年生がの就職指導に対して前向きな評価をしている | B | A | A | 計画的な就職指導を行い、一次試験での不調者も減少した |
| | | キャリア形成としての進路が実現する学校 | 上級学校との連携を進め、高大連携型をはじめとする生徒の状況に合わせた進路実現の道筋をつける | 令和6年度末までに高大連携先(新規)を一校以上開拓する | A | A | A | 新規に高大連携先を開拓できた |
| キャリア教育の充実 | 主体性を持ち自ら考え挑戦する意識を育む取組が実践される学校 | 職業分野別講演会や分野別進路体験学習などをとおして、生徒が自身のキャリアを意識し、日々の諸活動に主体的・積極的に取り組めるように指導する | 各種アンケートで80%以上の生徒が前向きな評価をしている | B | B | B | 前向きな評価をしている生徒が多い反面、キャリアを意識した主体的な取組については課題が残った | |

| | | | | | | | | |
|-------|------|--|--|--|---|---|---|---|
| 第1学年部 | 学習指導 | 主体的な学習習慣を確立させる。 | 挨拶や清掃を基本とした生活習慣を身につけさせることで安定した学習環境を整備し、生徒が自ら前向きに学習に取り組めるようにサポートする。 | 学校生活全般や各クラスでの生徒の様子を観察することや面談を通して検証する。 | C | C | B | 課題や宿題の期限内提出状況が芳しくなかった。あらためて基礎的な生活習慣や基本行動の指導を徹底していく。 |
| | 生徒指導 | 課題を抱えた生徒を早期発見し適切に対応する。 | 毎日の学年ミーティングで各クラスの生徒状況を把握し、学年団と各分掌が協力して指導する。個人面談等を随時行い保護者の方との連携を密にすることで課題解決に向けて早期対応・早期対処に当たる。 | 学校評価アンケート（生徒）の項目により80%以上を目標に検証する。 | B | B | | 担任を中心に各分掌・教科・部活動間で協力体制を築いて対応できた。引き続き連携を強化していく。 |
| | 学校運営 | ICTを活用した情報共有の充実を目指す。 | スタディサプリやTeamsなどを活用して教職員間の情報共有を迅速に行うことで個々の強みを活かしたチームとして協働を進める。 | 学校評価アンケートで確認する。 | B | B | | 教職員間や保護者への情報提供等でICTが活用できた。次年度もさらなる充実を目指す。 |
| 第2学年部 | 進路指導 | 進路目標を明確化し、授業を大切にするとともに積極的に学習活動に取り組む姿勢を育成する | 学習環境を整備し、日々の授業を大切にするとともに進路ガイダンスを活用し、将来の自己の姿に展望を持たせる 業者による模擬試験等を活用し、面談等をとおしてきめ細かに点検する | 学校評価アンケート（生徒）の項目により80%以上を目標に検証する 業者による資料を活用し、学力と学習習慣の改善度合いを検証する | B | B | B | 進路意識は少しずつ芽生えてきたが、明確な目標を持った生徒は多くない。個々の進路目標の具体化と学習習慣の定着が今後の課題である。 |
| | 生徒指導 | 基本的な生活習慣を確立するとともに、課題を抱えた生徒を早期発見し対応する。 | 学年会議で各クラスの生徒状況を把握し、必要に応じて担任団が協力して指導する。個人面談等を随時行い、保護者の方との連携連絡を密にして、問題解決に向けて、早期対応、早期対処に当たる。 | 学校評価アンケート（生徒）の項目により80%以上を目標に検証する | B | B | B | 生活習慣が確立していない生徒が一定数おり、次年度以降も課題となる。生徒指導は学年団を中心として他分掌とも連携を図りながら対応した。 |
| | 学校運営 | ICTを活用した情報共有の充実を目指す。 | スタディサプリなどを活用し、保護者・生徒への情報を迅速に行う。 | 学校評価アンケートで確認する。 | C | B | B | 引き続き保護者等との連携連絡を密に行い、対応していく。 |
| 第3学年部 | 進路指導 | 個々の希望する進路実現を目指す。 | 担任による面談等の指導の充実。進路指導部と対話し意見交換など密に連携することを心がける。 | 学校評価アンケート（生徒）の項目により80%以上を目標に検証する | B | B | B | 個々にあった進路や入試方法を指導することができた。進路部と学年との連携をもう少しうまくできればよかった。 |
| | 生徒指導 | 自立（律）性の確立。3年生として下級生の模範となる行動・言動を身につける。 | 担任によるSHR、LHR時の指導。約束を守ること、清掃による校内環境保全などの凡事徹底。必要があれば、学年全体での指導を行う。生徒自ら考え、主体的に行動できる力を身に付けることができるように指導する。 | 生徒の言動を観察し、評価する。 | B | B | B | 担任から身だしなみや生活習慣についての声かけを随時行ってきた結果、個々が自覚を持って行動することができた。 |
| | 学校運営 | ICTを活用した情報共有の充実を目指す。 | スタディーサプリなどを活用し、保護者・生徒への情報を迅速に行う。 | 学校評価アンケートで確認する。 | B | B | B | スタサブを活用して、連絡や情報の発信を適度にできていた。しかし、スタサブを確認している生徒が少ないのも現状である。ICTでの情報確認を習慣化する指導が必要である。 |

| | | | | | | | | |
|-------|-------------|------------------------|---|--|--|---|--------------------------------|--|
| 教育推進部 | 専門教育 | | 専門教科等と連携して検定補習を円滑に実施し、生徒の資格取得を推進する。 | 各検定試験が設定した目標合格率を上回る。高度資格取得のための講座を開催する。 | B | B | B | 検定試験前補習などを計画的に実施し、目標合格率を上回ることができた。 |
| | | | 専門教科、各部活動と連携して、専門教育を生かした各種競技大会等への参加を推奨・支援する。 | 全国入賞を目標とし、全国大会・近畿大会に出場する。 | B | A | A | 多くの部門で全国大会・近畿大会に出場した。情報科学科参加のAIアスリート選手権大会においてはデータクエスト全国優勝、Xクエスト02全国第2位入賞を果たした。 |
| | | 専門性を生かし、社会に貢献する意識を育む学校 | 文科省地域協働指定終了後の、地域との協働型の特色ある教育活動の推進を継続する。 | 生徒の振り返りレポートより、生徒に気づきと成長が見られる。 | B | A | A | 文部省地域協働指定終了後も、地域との協働型の特色ある教育活動を実践し、生徒の振り返りレポートからも、気づきと成長が見られた。 |
| | | | 「専門性ある職業人」「主体性」を育成することを目標として、深い学びを得る場としてのデパートを構想し、関係者との「共有」と「協働」によって実行する。 | 準備段階と当日における潤滑な運営ができる。生徒が自らの成長を認識できている。 | B | A | A | 京都すばるデパートにおいて、準備段階から当日また事後の処理に至るまで、円滑な運営ができ、生徒が自らの成長を認識できた。 |
| | | 魅力ある授業に向けて研究を進めるチーム | 「授業研究の日」等を活用し、魅力ある授業に向けて研究する | 各学科の取組状況の確認。 | B | B | B | 各教科科目において、「授業研究の日」等の時間を有効に活用し、教材研究を行い、魅力ある授業を展開した。 |
| | | 情報ネットワークシステムの維持・管理 | 情報ネットワークシステムの維持・管理を行う。 | 情報ネットワークシステムの維持・管理がスムーズにできる。 | B | B | B | 情報ネットワークシステムの可用性を高めるべく維持・管理に努めた。 |
| | | | 「学校DXの推進」のため、ICT研修会等の開催及び活用に向けた情報の発信・提供に取り組む。 | ICT研修会等の開催及び活用に向けた情報の提供ができる。 | B | B | B | ICT研修会等を通じて、活用に向けた情報発信を行った。 |
| | | | リブレースに向けての日程管理等を詳細に行い、授業での円滑な利用につなげる。 | 夏季休業中にリブレース作業を実施し、新学期の稼働ができる。 | B | B | B | 情報ネットワークシステムのリブレースにおいて、計画通り実施することができた。 |
| 保健部 | 自律性の確立 | | 清掃による校内環境保全の徹底 | 挨拶で始まり挨拶で終わることを大切に、10分間全てを用いて清掃する。 | 10分間の清掃時間を全て使って清掃できているか。 | B | B | 清掃アンケートの結果、概ねできているとの回答が多かった。 |
| | | | 校内の環境保全に向けて、保健委員会を中心に主体的に清掃に取り組む | どうすれば校内が美しくなるかを生徒が主体的に考え、ポスター作成やニュース作成といった啓発活動を行う。 | 保健委員会の生徒が各クラスの清掃場所の清掃状況を確認し、改善方法を提案しているか。 | C | B | 清掃状況の確認はできたが、改善方法の提案はできなかった。 |
| | 教育相談を組織的に行う | | 生徒一人ひとりに寄り添った教育相談体制を充実させる | 保健指導を充実させるとともに、保健担当者会議・教育相談会議にて、気になる生徒の指導の方向性について情報共有し、今後の対応、指導支援について審議する。 | 月1回の保健担当者会議、学期に2回の教育相談会議に向けて、学年部との連携、情報共有を行い、生徒へのきめ細かい対応を行っているか。 | B | A | 計画通り会議を行い、学年部等との情報共有、対応の連携をすることができた。 |
| | | | 教育方針や育てたい生徒像、生徒の日常の様子を共有する | 配慮・支援が必要な生徒の情報を保健部内で共有し、対応・支援方法を一致させておく。 | 配慮・支援が必要な生徒に一致した対応・支援を行っているか。 | B | A | B 保健部内で情報共有を密にし、一致した対応・支援を行うことができた。 |
| | 特別支援を組織的に行う | | 一人一人の生徒の教育的ニーズを把握し、適切な指導、支援を行う | 早期に特別支援が必要な生徒の実態把握を行い、生活や学習上の困難を改善し、社会的自立に向けた指導、支援を行う。 | 特別支援会議を学期に2回開催し、当該生徒の自立や社会参加に向けた取り組みを行っているか。 | B | A | 学年部等との情報共有、対応の連携を行い、当該生徒の自立や社会参加に向けた取組を行うことができた。 |
| | | 授業のユニバーサル・デザインを推進する | 全ての生徒にとってわかりやすい指導方法を研究し、実践を進めていく。 | 学校共通の授業のユニバーサル・デザインを5項目実現する。 | C | B | 授業のユニバーサルデザインの研究を進め、実施項目を検討した。 | |

| | | | | | | | | |
|-----|--------------|--|--|---|---|---|---|--|
| 事務部 | 予算執行 | 学校の特色化の推進及び活性化・他校との差別化を図るための効果的な予算執行 | <ul style="list-style-type: none"> 校内会議、広報活動への積極的な参加 教職員間でのコミュニケーションの場を多く設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> 目標を実現するための重点的な予算計画と執行 事務室を中心とした教職員打合せを適宜実施 | C | B | B | 事務部主導の教職員打合せを実施し、特色化の推進を行うための効果的な予算計画と執行はできたが、他校との差別化を図るためにより具他的な予算計画が必要と考える。 |
| | 施設設備 環境管理 | 安心安全な学校づくり | 施設担当者・技術職員を中心に施設設備の定期的な点検を行い、危険箇所を把握する。また、老朽化した施設設備について、計画的に改修を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 月1回程度の定期点検の実施 計画的な修繕と改修 | B | B | B | 安心と安全を第一に老朽化した施設設備について、順次改修等を行うことができた。 |
| | | DX化推進に伴う環境整備 | DX化推進のための施設設備の改修計画を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 関係分掌との協議や連携を深める。 学校全体のDX化に繋がるよう計画的な学校運営 | C | B | B | ICT機器をより整備し、かつ効果的に活用するために関係分掌との調整を行い、計画的な予算執行ができた。 |
| | 就学支援 | 経済的不安に対する制度からの支援 | 就学支援、奨学金の周知と丁寧な事務手続きを行う。 | 就学支援、奨学金等の生徒・保護者・教職員への周知徹底 | B | B | B | スタディサプリを活用し、その都度周知徹底を行うことができた。 |
| | | 一人一台端末に対する支援制度 | 家庭状況に応じて適切な対応を行う。 | 各制度を活用してすべての生徒のスムーズな利活用を進める | B | B | B | 支援制度が複雑なため、理解が得られない部分が多くあった。説明の仕方等の工夫が必要と考える。 |
| | 組織体制 | 事務部の組織体制強化 | <ul style="list-style-type: none"> 各個人の資質能力向上に努める。 報告、連絡、相談体制を確立する。 行政的立場からリードする。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校の諸課題について、部内会議等で共有する。 事務部から企画提案等を行う。 | C | C | C | 事務部からの企画提案ができなかった。学校の課題について、組織体制で取り組めなかった。1人の仕事ではなく、事務部として発信していることをもっと意識する必要がある。 |
| 国語 | 主体性 | 魅力ある授業に向けて研究を進める教職員チームを目指す取組 | 学びに向かう意欲が向上する授業運営を目指し、学科、小教科の枠にとらわれず、互いの授業を見学したり、意見を出し合えたりするチーム作りを目指す。 | 教師一人一人が授業力の向上を目指し、授業内容を充実させるために教員間でのコミュニケーションを積極的に行えたか。 | A | A | A | 授業中の生徒の反応や理解度を各科目で共有し、学習の効率化を図る取り組みを行った。 |
| | 学力 | 学力を向上させる取組 | 課題提出を通して、締切を意識させ、学習習慣を身につけさせる。 | 1年生から課題の確認をこまめに行い、学習習慣を身につけさせられたか。 | B | B | B | 教室提示、生徒への声掛けや担任への連絡など工夫を試みたが、一部どうしても提出できない生徒がいた。 |
| | | | 日々の小テストを通じ、こつこつ物事に取り組む力と基礎学力の定着を図る。 | 生徒一人一人の特性、能力を鑑み、日々よりよい結果と効果を生み出せたか。 | B | B | B | 小テストは毎週滞りなく実施できたが、一人一人が満足できる結果を残せたとは言えなかった。 |
| 進路 | 進路実現のための取組 | 社会に貢献する人材育成を目指し、教養と想像力の豊かな人間性を育むため、積極的に読書を促す取組をする。 | 図書館オリエンテーションの実施や、教職員による図書紹介、読書感想等の課題を通じて、図書に触れる機会を増やせたか。 | A | A | A | 図書館オリエンテーション・読書記録・新潮社「ワタシの一行大賞」・読書カード・おすすめ本紹介など各学年で取り組めた。 | |

| | | | | | | | |
|-------|---------|---------------------------------|---|---|---|---|--|
| 地歴公民科 | 主体性確立 | 授業における主体的・対話的で深い学びの実現 | 授業における発問・対話・グループ学習の導入 | 発問対話形式は毎時間 グループ学習は1学期2回程度 | C | B | 概ね達成できた。互いの意見を発表・交流する機会も設定していきたい。 |
| | 自立性確立 | 主権者・消費者・人権・多様性教育 | 地歴公民の学習関連関連分野での詳細説明 | 定期考査では関連分野での得点 その他は、映像教材視聴後の感想文 | B | B | B 各科目で積極的に取り組み、可能な限り、目標の達成に向けた指導を行った。 |
| | 主体性 | 魅力ある授業に向けて研究を進める教職員チームを目指す取組 | 教科会議・授業研究の日・研究授業等を活用し、教科力の向上のため、意見を出し合い協力できるチーム作りを目指す。 | 一人一人が授業力の向上を目指し努力するとともに、教員間でのチームワーク構築を積極的に行えたか。 | B | B | 概ね達成できた。次年度は、授業研究の日の一層の活用に努め、チーム力の向上に繋げたい。 |
| 数学科 | 学習指導 | 生涯学び続けるための学び力をつける | 学習習慣を樹立し、日常の課題に自ら取り組む力を育成する。 | 課題の提出率100%を目指す。基礎学力テストや模擬試験の成績が、入学時より向上するように指導する。 | B | B | B 課題の提出率および成績向上に向けた指導はおおむね80%ほどの達成率であった。 |
| | 進路指導 | 生涯学び続けるための学び力をつける | 上級学校への進学を目指す生徒への補習や個別指導を行う。 | 進路指導部と連携し各種補習を実施する。 | B | B | B 放課後および長期休業中など進学補習を実施することができた。 |
| | ICT活用 | 魅力ある授業に向けて研究を進める | デジタル教材（Webコンテンツ・Studyaid D.B.・TeX・iPadなど）による授業の視覚化・効率化を図る。 | 全授業の20%以上でデジタル教材を活用する。 | C | C | C 授業や教材作成などデジタル教材を用いることはあるが、部分的に留まった。 |
| 理科 | 主体性の確立 | 高校入学以前に学習した基礎知識および基本的な数的処理の学び直し | 主に発展的な内容を扱う単元において、基礎的な内容が理解できているかを確認し、場合によっては高校以前の非常に基礎的な内容から段階的に理解できるような授業設計を行う。 | 考査平均点および提出課題の得点平均が全体の60%以上となっているか。また、授業に関するアンケートにおいて、理解度や興味関心に関する項目の肯定的回答が70%以上となっているか。 | B | A | A 特に計算を伴う単元を扱う場合に基礎的な復習から開始し、理解度向上に取り組めた。 |
| | | 基礎知識の定着、個別指導の充実とそれに伴う学習意欲の向上 | 各単元において、特に基礎知識の定着を重点的に行い、わからない生徒を最小限にとどめる。理解が追いつかない生徒については個別指導を行い、講座全体で学習意欲が低下しないように対応する。 | | B | A | A 机間巡視、個別補充を重点的に行い、理解度の差を可能な限り埋める指導を行えた。 |
| | 個別対応の強化 | 個別の学力、進路目標に合わせた指導、授業を行う | 授業内外での生徒とのコミュニケーション、小テスト、アンケート等により生徒の学力や進路目標を確認し、各生徒に合った指導を行う。 | 授業に関するアンケートにおいて、理解度や興味関心に関する項目の肯定的回答が70%以上となっているか、進路実現において理科を活用する生徒が進路実現できたかどうか。 | B | B | B 日常のコミュニケーション、小テストによる授業改善は積極的に行えた。 |
| | 生徒情報の共有 | 生徒情報を共有し、個別指導および全体授業の設計に生かす | 様々な学力層および行動特性を持つ生徒が在籍しているため、授業中の様子やそれ以外にも気になったことがあれば、教科会等で共有し、指導に反映させる。 | 生徒情報の共有に関する教科会議や情報共有の機会をなるべくこまめに、複数回持つことができているかどうか。 | B | C | C 今年度より非常勤講師が増え、教科内での情報共有が行えない状況が多かった。 |

| | | | | | | | | |
|---|---------------------|---|--|---|---|---|---|--|
| 保健体育科 | 一人一台端末活用の推進 (保健) | 一人一台端末の利用を積極的に活用していく。 | グラフや図など、教科書のQRコードを読み取り活用する。アンケート機能を活用する。 | 課題学習の際に、発表資料の作成をタブレット端末やパソコンを活用できるか。 | B | B | B | 一定数の生徒がICTの活用して取り組むことができた。全員活用に向けて、指導者からの働きかけが必要である。 |
| | 主体性を高める (体育) | 自己の体力における特徴と課題を把握させるとともに、一層の向上を図る。 | 毎時間の終わりに振り返りを記録させる。自分の課題を明確にし、次の授業に向かわせる。 | 振り返りシートにより自己の課題の達成度が授業開始時より向上しているか。 | B | B | B | 種目終了時に振り返りを書くことで自分の課題や成長に気づく機会となった。授業開始時に振り返りを確認する時間があればよいが、その時間の確保が難しかった。 |
| | | 各種目の知識理解及び技能向上を図る。 | 知識テストを実施する。 | 知識テストの結果。ルールを理解したゲーム展開ができていますか。 | B | B | | テストのためにルールを確認する生徒が多くいたので、日々の取り組みの中でルールを意識するための指導を行った。結果、ルールに則したゲーム展開ができた。 |
| | 自立(律)性を高める (体育) | 安全かつ円滑に授業を進行するとともに、規律ある行動のもと、積極的に身体活動を行う心身の発達を促す。 | 年度初めに集団行動を実施し、集団での一人一人の行動の責任と重要性を感じさせる。毎時間の授業はじめに整列と挨拶を丁寧に実施する。誰か任せではなく、一人一人が声を出すよう促す。 | 様々な教育活動の中で迅速な行動、心のこもった挨拶ができていますか。 | B | B | | 授業で毎時間しっかりと挨拶することを徹底したが、生徒によって差がある。迅速な行動については、徹底できていない時に指導をし改善を促している。 |
| | チームワーク (保健体育科) | 笑談をとおして新しいアイデアを創造するチームを目指す。 | 日々の会話を大切にし、特に生徒の情報交流を細かく行う。その中で現状の生徒に応じた授業内容や行事内容について、昨年度の踏襲だけでなく新たなアイデアを考えていく。 | 教科会を活用し、生徒の情報共有、授業内容、行事内容の確認を行う。 | B | A | A | 教科会だけでなく、日々の会話からコミュニケーションを取りやすい雰囲気があるため、チームとして業務に当たることができた。 |
| 英語科 | 学習指導 (英語) | 生涯学び続けるための学び力をつける学校 | 1年生の英語コミュニケーションⅠ、3年情報科学科(課題研究)でTTを実施して、主体的な態度を育成する。 | AETとのTTを実施し、主体的にコミュニケーション運用能力を高めることができたか。 | B | B | B | AETの先生とJETとで連携しながら、コミュニケーション能力を高める意識を養った。 |
| | | | 定期的な授業内でリスニング指導を行う。 | リスニングの練習や指導及び小テストを実施し、リスニング力を高めることができたか。 | B | B | B | 練習やテストを行ったが、実施方法等の精査は必要である。 |
| | | | 各学年で週末課題を設定し、学習時間の増加と学力の向上を目指す。 | 日々の学習習慣を確立させる工夫ができたか。 | C | C | C | 解答の方法や提出に難があるなど、生徒にいかにも週末課題の意義を伝えるか課題が残る。 |
| | キャリア形成としての進路が実現する学校 | 魅力ある授業に向けて研究を進めるチーム | 教科指導や授業の改善について、教科会議・小教科会議で研究議論をする。 | 教科指導や授業改善について、教科会議・小教科会議で研究協議することができたか。 | B | B | B | 教科会議や小教科会議での協議だけでなく会議の時間を越えて協議を行うことができた。 |
| | | 業務分担・サポート・ポジティブなフィードバックをするチーム | 教科内で役割を分担し、業務を円滑に行えるようにサポートする。 | 教科内で協力し、業務を円滑に行える様にサポート・ポジティブなフィードバックをできたか。 | B | B | B | 教科内での協力体制により、円滑な業務運営のサポートを得ることができた。 |
| | | 進学補習を設定し、学習の機会・学力向上の機会を提供する。 | 商業に関する学科(1・2年生)の生徒全員に全商英検を受験させる。 | 全商英検合格に向けて適切な指導を行い、合格率を上げることができたか。 | B | C | C | 適切な指導を行い、サポートを行ったが、合格率は厳しい結果となった。 |
| 進学補習に積極的に参加する生徒を増やし、進学補習によって学習に取り組む意欲が増えたか。 | C | | C | C | 進学補習を実施し、参加した生徒は取り組む意欲を向上させたが、参加する生徒数に上昇は見られなかった。 | | | |

| | | | | | | | | |
|-----|-----------|--|---|--|---|---|---|---|
| 家庭科 | 主体性の確立 | 授業における主体的・対話的で深い学びを実現する | アンケートや3～4名程度のグループワークを取り入れ、積極的な意見交換や発表を行い、振り返りレポートなどをこまめに取り入れる。課題レポートの発表などを通して、情報の共有を行う。 | グループワークや意見交換が積極的にできているか。まとめられているか。(ワークまとめ点) | C | B | B | グループワークはクイズ形式、アンケート様式、協議様式など多様な方法で行えた。 |
| | | 体験を通して創意工夫・効率の良い作業やルールを学ぶ。 | | 必要な知識を系統的に吸収し、実践につなげられるか。定期考査に向けて誠実に学習できているか。(段階別考査点) | C | C | C | 観点別に考査問題を作成し、学習状況が確認できた。 |
| | 立(自律)性の確立 | 自らの現状や課題を模索し、自立に必要な知識と技術を習得する。 | 講義、ワーク、実習、振り返り、提出物の完成度などを通して定着の様子を把握する。個人作業や協力作業を取り入れ、コミュニケーションを取りながらスムーズに作業できるよう促す。 | 現状と課題が把握できているか。提出物が指示通りできているか(レポート点提出物点)実習や作業が協力して、また個人の目標達成できたか。(実習点) | C | B | B | 提出物の形式を一定化せず、多様な様式で実施した。実習は1時間のを3回、毎回班編成を変えてクラス内での生徒とも関われるよう工夫して実施した。 |
| | | 意思決定の重要性を知り、適切な情報、資料の読み取りができるようにする。 | 視覚教材や資料を活用し、身の回りに起こってる多様な状況を知らせることで課題意識を持たせ、自己決定の判断材料とする。 | 将来を見通した生活管理や情報の活用が適切にできているか。資料の読み取り内容を論理的に説明できているか(段階別考査点) | C | B | B | 写真や動画、読み聞かせ、新聞記事などを利用し、デジタルコンテンツを活用して発表するなど皆に共有できるように努められた。 |
| | 進路実現 | 社会情勢を知り、知識を蓄え、自分の言葉で現状と課題解決に向けての意思表示ができるようにする。 | 同上 | 将来を見通した生活管理や情報の活用が適切にできているか。資料の読み取りと現代の課題を結びつけ、自分の言葉で意思表示できているか。(段階別考査点、レポート点) | C | C | C | 写真や動画、新聞記事などを利用して現状を知らせ、期限を設けて将来に向けての課題を考えさせる働きかけをした。 |
| | | | 生活に関わる情報をリアルタイムで提示し、その都度考えをまとめる等の意思表示ができるよう促す。 | | C | C | C | 写真や動画、新聞記事などを利用してレポートに取り組みせたり、デジタルコンテンツを活用して発表するなど皆に共有できるように努められた。 |

| | | | | | | | | | |
|-----|-----------------|-------------------------------|--|--|---|---|---|---|---|
| 商業科 | 知識・技術を身に付けさせる | 専門性のベースとなる学力を身に付けさせる（普通科目） | ①一部科目で講座授業を実施し、個別指導による学力向上を図る ②専門科目と科目間連携を図る ③学校図書館を活用する | ①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | B | B | B | ①財務会計Ⅰ・原価計算（2年）で実施 ②ビジネス英語（2年）で実施 ③教科・科目として図書館の利用は不十分であった。 | |
| | | 専門性を身に付けさせる（専門科目） | ①教科・学科の特性を生かした専門科目の内容充実に努める ②検定試験や各種コンテストを活用する ③販売学習「京都すばるデパート」を活用する | ①専門科目の内容充実度 ②検定試験の合格率（前年度以上） ③生徒アンケート（専門科目の学習内容をデパートで活用できたか） | C | B | | 検定試験の合格率は昨年度とほぼ同じであった。 デパート前にはビジネス基礎（1年）や課題研究（3年）を中心に各専門科目に関連する内容を実施できた。 | |
| | 思考力・判断力・表現力を伸ばす | 課題解決型探究学習を推進する | ①課題研究において、全グループで探究の流れ（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）に沿った授業を展開する ②その他の科目でも積極的に探究学習を行う ③卒業後の進路決定の際、探究学習の成果を活用する | ①②生徒アンケート（振り返り・満足度） ③進路決定状況 | B | B | | 課題研究（3年）では全グループが探究の流れに沿った活動を行い報告書を作成した。生徒の授業評価アンケートの結果からも満足度が高かったが、進路決定に生かされたかどうか、検証は十分にできていない。 | |
| | | 社会とつながる実践的学習を推進する | ①学校設定科目等において、外部講師による講演会やワークショップを活用する ②課題研究等においてフィールドワークや校外実習（学校を飛び出す授業）を積極的に実施する ③高度会計人材育成で連携協定校である京都産業大学との交流を推進する ④姉妹校である台北市立士林高級商業職業学校との交流を推進する | ①②③④年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | B | A | | ①外部講師を招聘した授業を年間30回以上実施 ②フィールドワークや校外学習は主なもので年間30回以上実施 ③年4回にわたる継続的な取り組みを実施 ④12月に訪台・3月に来日交流を実施 社会とつながる実践的な学習が充実したものとなった。 | |
| | 学びに向かう力・人間性を育む | 生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育む | ①教員がファシリテーターを務め、生徒が主体的に学ぶ機会を作る ②「自ら学び続けている大人」との出会いを創出する（起業家、大学教員等） | ①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | B | A | | ①課題研究（2・3年）や学校設定科目を中心に、主体性を発揮できる授業やプロジェクトを数多く展開した。 ②外部講師を招聘した授業を年間30回以上実施し、生徒から「大人になってからも主体的に学ぶ姿勢の大切さに気付いた」という感想が多く聞かれた。 | |
| | | 社会に貢献しようとする態度を育む | ①学科の専門性と社会課題を結びつける授業を展開する（専門性が社会貢献につながる感覚を持たせる） ②ソーシャルビジネスに携わる大人との出会いを創出する（起業家、行政職員、地域の方等） | ①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | B | A | | ②外部講師を招聘した授業を年間30回以上実施したことを通じて、①各科目の内容が実際のビジネスとどうつながるか、どう社会に貢献するかを考えさせることができた。 | |
| | 教職員のチーム作り | 魅力ある授業に向けて研究を進めるチーム | ①教科会議・科目会議・学科長会議等を活用し、教材や指導法・カリキュラムの情報共有を行う ②他府県で先進的な取り組みを行う学校・企業等の視察を行い、教科・学科全体に還元する ③業務の精選と分担を適切に行い、特定の教員に負担が偏らないチームを作る | ①②③年間の実施回数および実施内容 | C | B | | C | ①商業科会議・学科長会議はともに年間約25回実施し、情報共有が進んだ。 ②全商大会の参加・生徒商業研究発表大会（全国大会）の視察等を行い、内容を教科全体へ還元した。 ③精選や分担が進まず、サポート体制も構築できず。 |
| | | 業務分担・サポート・ポジティブなフィードバックをするチーム | | | C | C | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------------------------|-----------------|----------------------------|---|--|---|---------------------------------------|---|---|
| 情報科 | 学習指導 | 生涯学び続けるための学び力をつける | 授業において生徒全員が理解を深められるよう、授業中に複数の教員で対応、確認を行う。検定試験や国家試験の合格率を上げるため、補習や個に応じた指導を行う。 | 授業アンケートにおいて、理解が得られているか。 検定試験、国家試験の合格率向上。 | B | A | B | 検定試験や国家試験の合格率も上がり、上位層だけでなく、全体として意欲的に学習に取り組む姿勢がみられる。 |
| | 学習指導 | 魅力ある授業に向けて研究を進める | 研修等に積極的に参加し、教科やICT教育の推進に関わる研究に努める。研究授業週間や授業参観を活用し、教員間で授業について意見を交流を行うことで、授業改善を行う。 | 研修等への参加回数。 授業参観、意見交流を行えたか。 | B | B | | 全国専門学科情報科研究協議会や情報教育研究会等に参加し、研修を深めた。来年度は、新しい分野の導入に向けた研修に全員で取り組み、意見交流を積極的に行いたい。 |
| | 教職員チーム | 教育方針や育てたい生徒像、生徒の日常の様子を共有する | 各科目で完結するのではなく、学年毎や教科全体を通して授業の見通しを共有する。情報科会議や学年毎の会議（授業研究の日等）の時間を有効に使い、生徒の情報共有を行う。 | 教科全体で全ての授業の内容を把握し、見通しをもった授業設定を行えたか。各学年の科目間での情報交換を行えたか。 | B | B | | 各学年の科目間での情報交換は積極的に行えたが、来年度は全科目の情報交換や意見交流を持てる場を作っていきたい。 |
| 起業創造科 | 知識・技術を身に付けさせる | 専門性のベースとなる学力を身に付けさせる（普通科目） | ①一部科目で講座授業を実施し、個別指導による学力向上を図る ②専門科目と科目間連携を図る ③学校図書館を活用する | ①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | C | B | B | ①については、簿記、財務会計等において講座授業を実施し、学力向上に向けた取り組みが実施出来た。 ②③は、次年度の課題である。 |
| | | 専門性を身に付けさせる（専門科目） | ①教科・学科の特性を生かした専門科目の内容充実に努める ②検定試験や各種コンテストを活用する ③販売学習「京都すばるデパート」を活用する | ①専門科目の内容充実度 ②検定試験の合格率（前年度以上） ③生徒アンケート（専門科目の学習内容をデパートで活用できたか） | B | A | | ①については、起業マネジメント、ビジネス基礎等を開講し、学科の特性を充実させる授業が実施出来た。（税の学習・湖池屋プロジェクト）振り返りシートの生徒感想からも生徒の満足度が高い結果となっている。 |
| | 思考力・判断力・表現力を伸ばす | 課題解決型探究学習を推進する | ①課題研究において、全グループで探究の流れ（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）に沿った授業を展開する ②その他の科目でも積極的に探究学習を行う ③卒業後の進路決定の際、探究学習の成果を活用する | ①②生徒アンケート（振り返り・満足度） ③進路決定状況 | B | A | | ①については、課題研究において各ゼミの特性を活かした授業展開が出来、ゼミレポートの記載からも生徒の活動の充実度がうかがえた。 |
| | | 社会とつながる実践的学習を推進する | ①学校設定科目等において、外部講師による講演会やワークショップを活用する ②課題研究等においてフィールドワークや校外実習（学校を飛び出す授業）を積極的に実施する ③高度会計人材育成で連携協定校である京都産業大学との交流を推進する | ①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | B | A | | ①②については、年間20回を超える外部講師連携やワークショップ、フィールドワークが実施出来た。 ②については昨年度に引き続き高大連携授業が年4回（校内・外部企業・大学講義等）実施出来た。 |
| | 学びに向かう力・人間性を育む | 生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育む | ①教員がファシリテーターを務め、生徒が主体的に学ぶ機会を作る ②「自ら学び続けている大人」との出会いを創出する（起業家、大学教員等） | ①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | B | A | | ①プロジェクト型授業において教員がファシリテーターとしての役割をする授業が実施できた。 ②外部の大人との出会いを創出する授業は実施出来ているが、三年間の系統だった体系的連携は次年度以降実施したい。 |
| | | 社会に貢献しようとする態度を育む | ①学科の専門性と社会課題を結びつける授業を展開する（専門性が社会貢献につながる感覚を持たせる） ②ソーシャルビジネスに携わる大人との出会いを創出する（起業家、行政職員、地域の方等） | ①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | B | B | | ①②については、2年課題研究において社会起業家の方を招いての連携授業を実施した。 |
| | 教職員のチーム作り | 魅力ある授業に向けて研究を進めるチーム | ①教科会議・科目会議・学科長会議等を活用し、教材や指導法・カリキュラムの情報共有を行う ②他府県で先進的な取り組みを行う学校・企業等の視察を行い、教科・学科全体に還元する ③業務の精選と分担を適切に行い、特定の教員に負担が偏らないチームを作る | ①②③年間の実施回数および実施内容 | C | B | | ①については、教科会議が定例で実施されたことで、一定の情報共有はできた。新しいカリキュラムが次年度から実施されるにあたり、さらなる高みを目指した指導法の研究が必要となる。 |
| 業務分担・サポート・ポジティブなフィードバックをするチーム | | | | B | B | ③については新しい取り組みや授業が始まり、業務の精選については課題が残る。 | | |

| | | | | | | | | |
|-----|-----------------|-------------------------------|---|--|---|---|---|---|
| 企画科 | 知識・技術を身に付けさせる | 専門性のベースとなる学力を身に付けさせる（普通科目） | ①一部科目で講座授業を実施し、個別指導による学力向上を図る ②専門科目と科目間連携を図る ③学校図書館を活用する | ①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | B | A | B | ①英語コミュニケーション（1年）・数学Ⅰ（1年）などで実施 ②ビジネス英語（2年）で実施 ③現代の国語（1年）などで実施 それぞれ充実した取組になっていたが、教科間・科目間の情報共有が必要。 検定試験の合格率は昨年度とほぼ同じであった。 デパート前にはビジネス基礎（1年）や課題研究（3年）を中心に各専門科目で関連する内容を実施できた。 |
| | | 専門性を身に付けさせる（専門科目） | ①教科・学科の特性を生かした専門科目の内容充実に努める ②検定試験や各種コンテストを活用する ③販売学習「京都すばるデパート」を活用する | ①専門科目の内容充実度 ②検定試験の合格率（前年度以上） ③生徒アンケート（専門科目の学習内容をデパートで活用できたか） | C | B | | 課題研究（3年）では全グループが探究の流れに沿った活動を行い報告書を作成した。生徒の授業評価アンケートの結果も90%を超え、満足度が高かった。 ただそれらを進路決定に生かされたかどうか、まだ検証できていない。 |
| | 思考力・判断力・表現力を伸ばす | 課題解決型探究学習を推進する | ①課題研究において、全グループで探究の流れ（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）に沿った授業を展開する ②その他の科目でも積極的に探究学習を行う ③卒業後の進路決定の際、探究学習の成果を活用する | ①②生徒アンケート（振り返り・満足度） ③進路決定状況 | B | B | | ①外部講師を招聘した授業を年間20回以上実施 ②フィールドワークや校外学習は主なもので年間21回 ③12月に訪台・3月に来日交流を実施 たいへん充実した内容となった。 |
| | | 社会とつながる実践的学習を推進する | ①学校設定科目等において、外部講師による講演会やワークショップを活用する ②課題研究等においてフィールドワークや校外実習（学校を飛び出す授業）を積極的に実施する ③姉妹校である台北市立士林高級商業職業学校との交流を推進する | ①②③年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | B | A | | ①課題研究（2・3年）や学校設定科目を中心に、主体性を発揮できる授業やプロジェクトを数多く展開した。 ②外部講師を招聘した授業を年間20回以上実施し、生徒から「大人になってからも主体的に学ぶ姿勢の大切さに気付いた」という感想が多く聞かれた。 |
| | 学びに向かう力・人間性を育む | 生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育む | ①教員がファシリテーターを務め、生徒が主体的に学ぶ機会を作る ②「自ら学び続けている大人」との出会いを創出する（起業家、大学教員等） | ①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | B | A | | ②外部講師を招聘した授業を年間20回以上実施したことを通じて、①各科目の内容が実際のビジネスとどうつながるか、どう社会に貢献するかを考えさせることができた。 |
| | | 社会に貢献しようとする態度を育む | ①学科の専門性と社会課題を結びつける授業を展開する（専門性が社会貢献につながる感覚を持たせる） ②ソーシャルビジネスに携わる大人との出会いを創出する（起業家、行政職員、地域の方等） | ①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | B | A | | ①商業科会議・学科長会議はともに年間約25回実施し、情報共有が進んだ。 ②全商大会の参加・生徒商業研究発表大会（全国大会）の視察等を行い、内容を教科全体へ還元した。 ③昨年度からあまり変わっていない。 |
| | 教職員のチーム作り | 魅力ある授業に向けて研究を進めるチーム | ①教科会議・科目会議・学科長会議等を活用し、教材や指導法・カリキュラムの情報共有を行う ②他府県で先進的な取り組みを行う学校・企業等の視察を行い、教科・学科全体に還元する ③業務の精選と分担を適切に行い、特定の教員に負担が偏らないチームを作る | ①②③年間の実施回数および実施内容 | C | B | | |
| | | 業務分担・サポート・ポジティブなフィードバックをするチーム | | | C | C | | |

| | | | | | | | | |
|-------|-----------------|-------------------------------|---|--|---|---|---|--|
| 情報科学科 | 知識・技術を身に付けさせる | 専門性のベースとなる学力を身に付けさせる（普通科目） | ①一部科目で講座授業を実施し、個別指導による学力向上を図る ②専門科目と科目間連携を図る | ①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | B | A | B | 課題研究において、英語科、国語科との連携を行った。また、情報セキュリティにおいて地歴公民科との連携を行った。 |
| | | 専門性を身に付けさせる（専門科目） | ①教科・学科の特性を生かした専門科目の内容充実をめぐる ②検定試験や各種コンテストを活用する ③販売学習「京都すばるデパート」を活用する | ①専門科目の内容充実度 ②検定試験の合格率（前年度以上） ③生徒アンケート（専門科目の学習内容をデパートで活用できたか） | C | B | | 検定試験等の合格率は昨年度に比べ、増加した。京都すばるデパートにおいてもメタバース空間の構築等で力を発揮できた。 |
| | 思考力・判断力・表現力を伸ばす | 課題解決型探究学習を推進する | ①課題研究において、全グループで探究の流れ（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）に沿った授業を展開する ②その他の科目でも積極的に探究学習を行う ③卒業後の進路決定の際、探究学習の成果を活用する | ①②生徒アンケート（振り返り・満足度） ③進路決定状況 | C | B | | 8割程度の生徒が意欲向上等につながっていたが、1月末時点で進路未決定が10名程度おり、活用等ができていない生徒もいることが考えられる。 |
| | | 社会とつながる実践的学習を推進する | ①学校設定科目等において、外部講師による講演会やワークショップを活用する ②課題研究等においてフィールドワークや校外実習（学校を飛び出す授業）を積極的に実施する | ①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | B | B | | 京都産業大学講演会、京都コンピュータ学院による集中講義、ワークショップ、VR研究班の大阪工業大学研究室見学、グローバル研究班フィールドワークを実施。8割を超える満足度であった。 |
| | 学びに向かう力・人間性を育む | 生涯にわたって自ら学び続ける姿勢を育む | ①教員がファシリテーターを務め、生徒が主体的に学ぶ機会を作る ②「自ら学び続けている大人」との出会いを創出する（大学・専門学校教員等） | ①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | B | B | | 特別講演会やカレッジインターンシップ等を実施することで、新たな知識や教養の習得や進路意識を高めることができた。 |
| | | 社会に貢献しようとする態度を育む | ①学科の専門性と社会課題を結びつける授業を展開する（専門性が社会貢献につながる感覚を持たせる） ②ソーシャルビジネスに携わる大人との出会いを創出する（企業の方、京都府警の方等） | ①②年間の実施回数および実施内容、生徒アンケート（振り返り・満足度） | C | B | | 啓発活動班で京都府警察やデジタル学習支援センターとの連携を行った。 |
| | 教職員のチーム作り | 魅力ある授業に向けて研究を進めるチーム | ①教科会議・科目会議・学科長会議等を活用し、教材や指導法・カリキュラムの情報共有を行う ②業務の精選と分担を適切に行い、特定の教員に負担が偏らないチームを作る | ①②年間の実施回数および実施内容 | C | B | | 教科会等で情報共有を行った。一方で、実習助手の先生に授業に入っていたくなど、教員の負担は増えたように思う。令和7年度に向けて教員負担を減らすことを目指していきたい。 |
| | | 業務分担・サポート・ポジティブなフィードバックをするチーム | | | C | C | | |